

浅草隅田川河畔における芝居空間の提案 —平成歌舞伎小屋の設計を通じて—

M5072 山田明里

指導教授 本杉省三



1. 計画の背景と目的

1.1 歌舞伎における空間と演出の現状

明治以来の歌舞伎劇場は、西欧をモデルとした改良主義によって生まれた洋式的な劇場と言える。額縁式舞台が導入されたのをはじめ、商業主義による規模の拡大・間口の拡幅・椅子座への変更は大き（出典：明治歌舞伎の成立と展開 / 慶友社）な変化をもたらした。それは確かに安心で快適な劇場を作ることに成功した。観客は芝居を「参加」するから「鑑賞」する対象への変化を余儀なくされた。演出自体も同様で、淫奔・残虐な場面の上演は禁じられ、額縁の中に収まった高尚で上品な演劇を提供することとなった。



fig. 02 洋風建築になった歌舞伎座

1.2 新たな試み

1970年以降、伝統演劇側から垣根を超えて新しい表現を探る試みが、役者を始め現代演出家によってなされるようになる。伝統的な技法と現代的解決を最新の舞台機構、音響、照明によって合成し、大衆性とスペクタクル性を前面に押し出した新趣向の演出で人々を楽しませている。スーパーカブキ（市川猿之助）によって触発された第二世代（中村勘九郎、現勘三郎）によって始められたコクーン歌舞伎は、演出とともに劇場空間の大きさ、升席構造の大きさがきわめて重要な要素であることを証明してみせた。

1.3 水辺への新たな可能性

舟運の役割を終え、高度経済成長期により一旦は背を向けられた都市の運河であるが、近年は再生をめざす懸命の活動によりかなり浄化されつつある。2005年6月には「運河ルネッサンス」構想が東京都より打ち出され、大規模な水辺に対する公共利用の増加が期待される。



fig. 04. カミソリ堤防

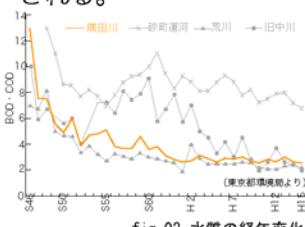
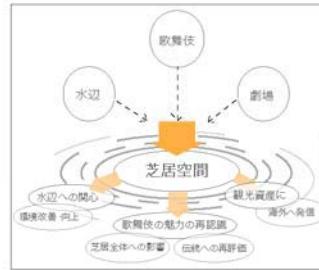


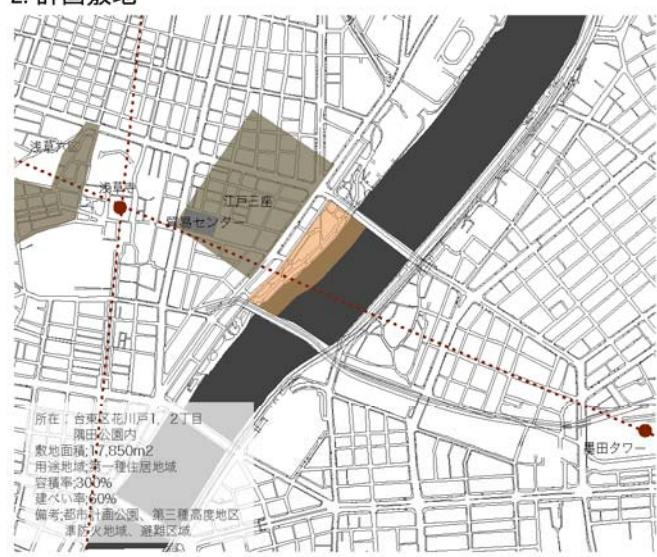
fig. 03. 水質の経年変化

1. 4. 浅草隅田川河畔における芝居空間

以上の背景より、悪所として囲われ為政者から遠ざけられながらも、水辺で発祥し仮設的であった芝居小屋を振り返り、現代における芝居空間を再構築することを本計画の目的とする。水辺に裏表のない親水性あふれる風景を都市に見いだすことがねらいでもある。



2. 計画敷地



2. 1. 芝居まちとしての浅草

江戸時代においては江戸三座、明治においては浅草六区という名で遊興空間が成立していた浅草には、宗教・見せ物・行楽といった各遊興要素が無秩序に入り込み、遊びの回遊性が存在した。いわば都市の陰翳を移し込んだような場所性がここ浅草に存在している。平成中村座を契機として、浅草に芝居小屋をつくりたいという要望が多くあり、fig. 08に示す貿易センターがその候補地としてあがっている。

2. 2. 隅田川の現状

かみそり堤防には親水テラスが新設されたりまち全体でスーパー堤防になったりとさまざまな対策が練られているが、未だ過去のような親水性を取り戻すに至っていない。



3. 設計コンセプト

fig. 09. 祝祭空間道のイメージ

3.1. 祝祭空間（祝祭性）

古来より日本の芸能空間の要となる「道」をテーマに空間構成していく。空間が常に流動的に変化する仕掛けをつくることによりぎわいを発生させたい。

3.2. ホワイエというまち（非日常性）

明治以降の近代化によってもたらされた西欧式劇場モデルを廃し、芝居を成立させる様な機能を分散することで、人間と空間の流動化を図る。これにより芝居空間が街として広がる効果を持たせたい。

3.3 水上芝居小屋（仮設性）

現状の歌舞伎劇場が持つ問題点を解決するため芝居の原点に立ち返った仮設性を有する芝居小屋を提案し、これから建築の可能性、水辺への可能性につながる水上芝居小屋を提案したい。

4. 設計の概要

4.1. 水上芝居小屋のシステム

浮体構造物（バージ）を利用し水上に芝居空間をたてる。いくつかパツに分散させておき、歌舞伎上演時にはそれらを合体、接合しひとつの集合体として成立させ、公演外は再び分散・独立させ、それぞれが別の機能を持つようあらかじめ機能を設定しておく。常に空間が変化し、一過性であることで祝祭性を強調。

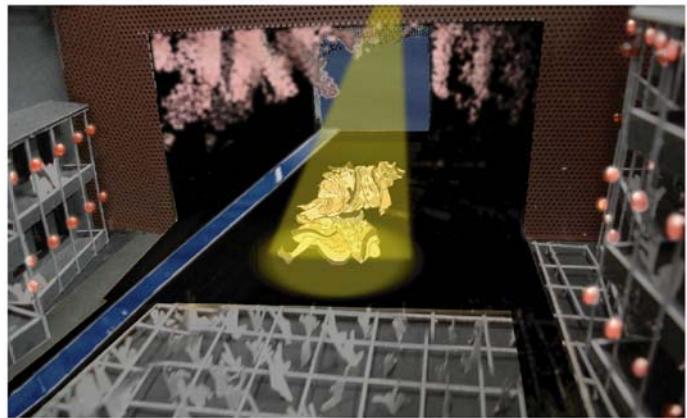


fig. 10. 芝居小屋内部のイメージ

4.2. 歌舞伎上演時の芝居小屋（バージ集合体）

独立した7つのバージが接合、合体するときはじめ歌舞伎空間が成立する。

- ・浅草隅田川空間に特化した演出空間

隅田川が舞台となることの多い歌舞伎。水上でしかできない演出を提案する。

- ・全升席の客席空間

- ・張り出し舞台の復活

- ・斜め花道

- ・舟でのアクセス

- ・多焦点性を考慮した客席配置

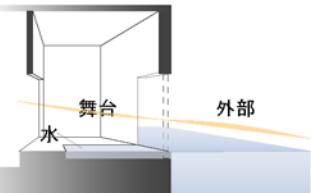


fig. 11. 水上を生かした演出

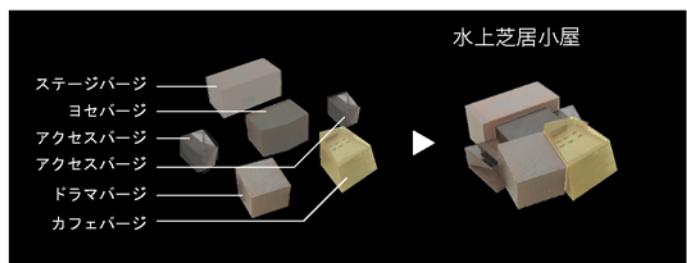


fig. 12. 芝居小屋構成ダイアグラム

劇場名	シアターコクーン	金比羅大芝居	隅田川河畔浅草歌舞伎小屋
所在	東京・渋谷	香川県仲多度郡琴平町	東京・浅草
建設	1989	1835年(1976年)	2007
座席数	747席	815席	824席
プロセニум	有	無	有
舞台間口	約 W12.5m×H8.18m	約 W10.9m×H6.3m	約 W13.0m×H8.0m
奥行き	15 m	7.3 m	21 m
花道	無	有	有

fig. 13. 平成歌舞伎小屋算出表

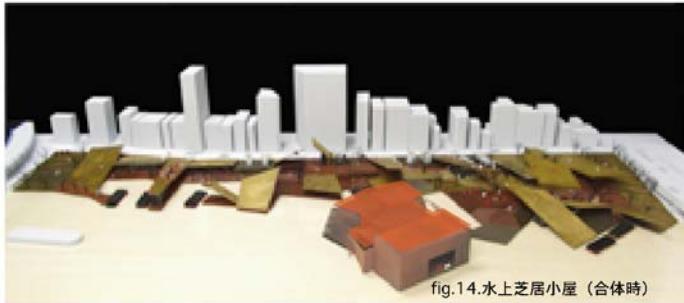


fig.14.水上芝居小屋（合体時）

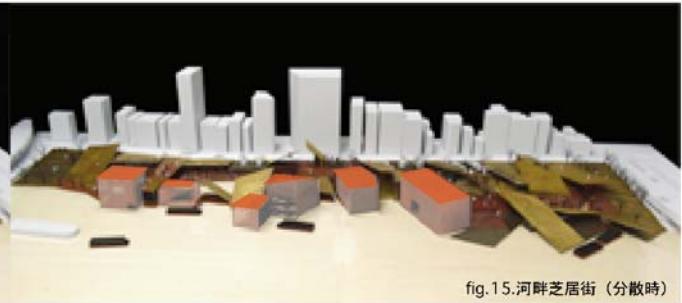


fig.15.河畔芝居街（分散時）

4.3. 分散時システム説明

歌舞伎小屋として合体していた各バージは分離したときに、接岸してそれが機能を異にした芝居空間となり、河畔を浅草の街と連動した芝居まちに変容させる。

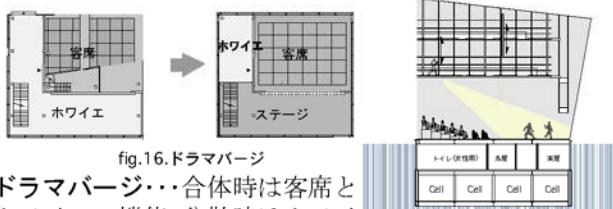


fig.16.ドラマバージ

ドラマバージ…合体時は客席とホワイエの機能。分散時はホワイエ部が舞台となり、小規模の演劇空間となる。

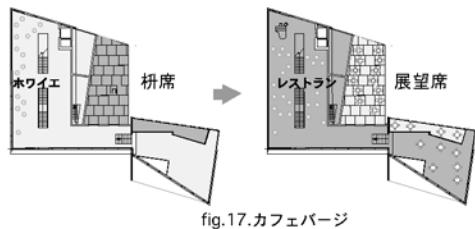


fig.17.カフェバージ

カフェバージ…合体時は客席とホワイエの機能。

分散時はホワイエ部がカフェとなり、隅田川を眺望できる。



fig.18.ヨセバージ

ヨセバージ…合体時は客席と舞台の機能。

分散時は寄席のための小劇場となる。

・バージ周辺機能ダイアグラム

歌舞伎上演時（合体時）



fig.19.バージ周辺機能ダイアグラム

河畔芝居街（分散時）



fig.19.バージ周辺機能ダイアグラム

・音響・施工計画

バージ同士が接合していた部分は、ケーブルを上下にはりその間にパネルをはめ込み、最後に内側から遮音パネルを貼る。工期短縮・低コストを図る。

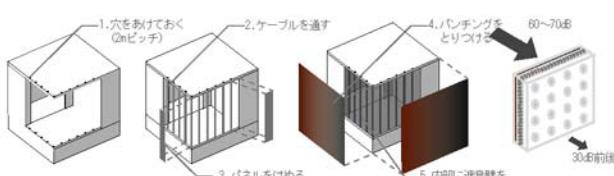


fig.20.バージ分離時施工図

4.4. 河畔

・都市計画公園と芸能空間の一体化

都市計画公園であり緑地保全・避難区域であるという規制を解決するため「道」をテーマにした空間を提案。



fig.21.道

・地形ダイアグラム

都市からの様々な軸線を引く事でグリッドを形成。街側から水辺へゆるやかに傾斜しながら下っていく。

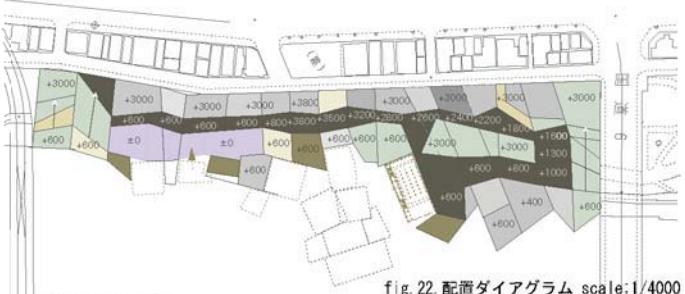


fig.22.配置ダイアグラム scale:1/4000

・芝居客動線



fig.23.動線ダイアグラム scale:1/4000

・サービス動線

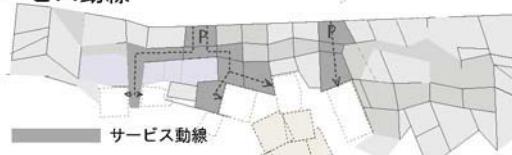


fig.24.動線ダイアグラム scale:1/4000

・公園動線

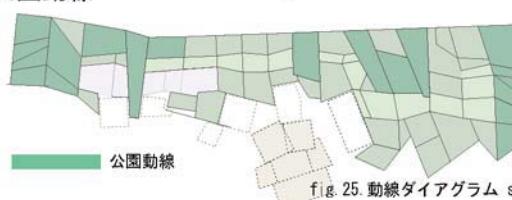


fig.25.動線ダイアグラム scale:1/4000

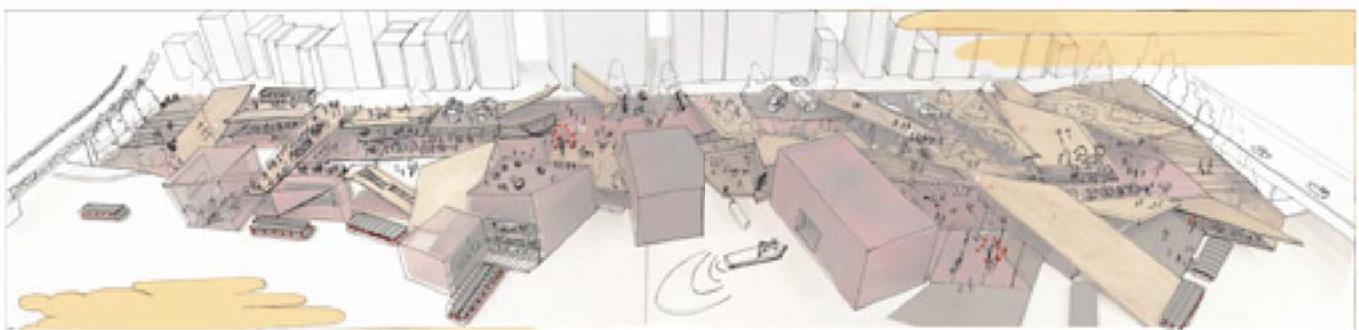


fig. 26. 芝居街イメージ.

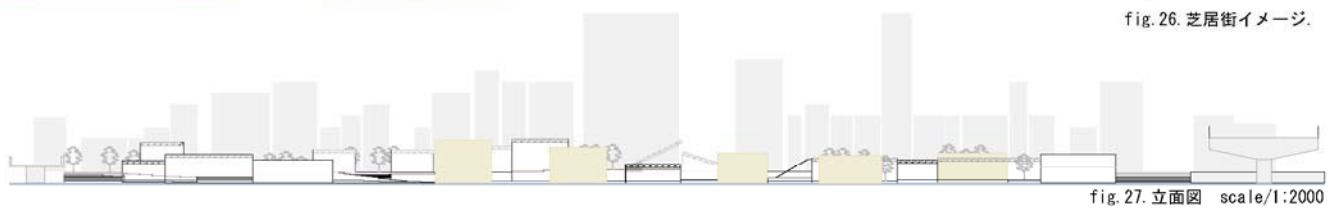


fig. 27. 立面図 scale/1:2000

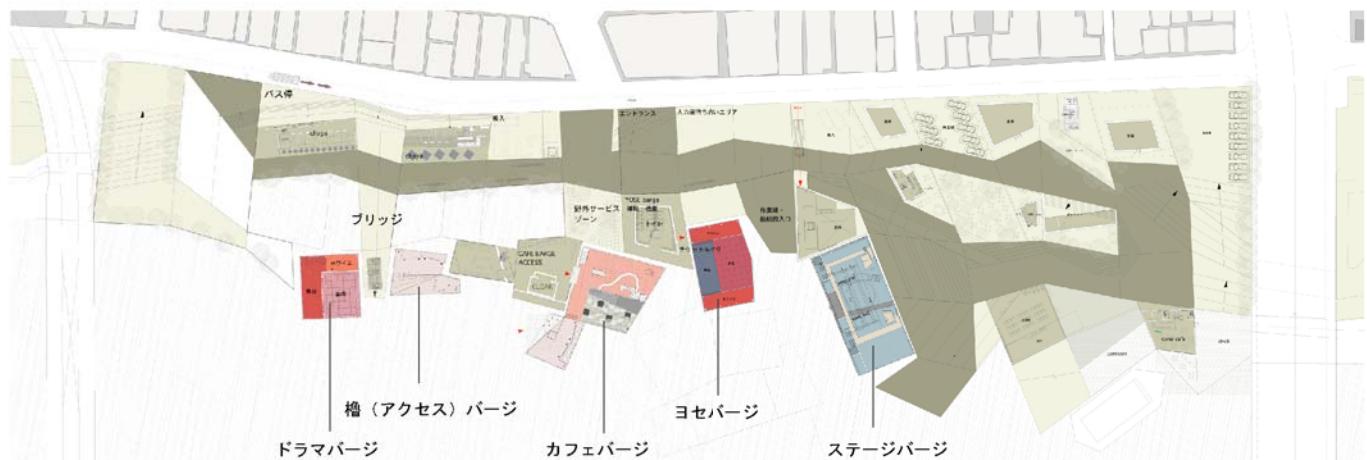


fig. 28. 河畔芝居街平面図 scale/1:2000



fig. 34. 断面図1 scale:1/2000



fig. 35. 断面図2 scale:1/2000

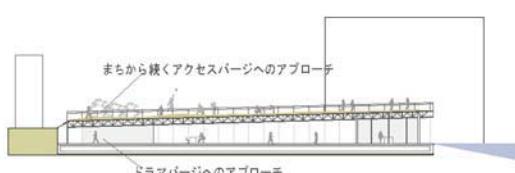


fig. 36. 断面図3 scale:1/2000

・構造計画 (fig. 34.)

鉄骨鉄筋コンクリート造。屋根にはトラスを組み、水平力は壁で支え、全体は柱で支える。壁の中には必要機能が入る。この構造により、芝居空間と公園の表裏一体化が可能になる。

・張り出した屋根 (fig. 32.)

屋根上には公園機能となり、下は芝居街空間としての機能になる。またいくつも張り出す地形はデザインのアクセントとして楽しませてくれる。

・隆起した地形 (fig. 33.)

エントランスから徐々に下り、ゆるやかに隆起した地形が時には休憩スペース、時にはパフォーマンス空間、時には寄席となりゆるやかにつながる空間ができる。

・流動する空間

常に空間を変化させていくことで、一過性的祝祭空間を生み出し、また収益も常に見出すことが可能になる。浅草全体が「芝居街」として復活し、水辺環境もよくなることを願う。